

望ましい産業立地のためのデータ分析

都市経済学・地域経済学

山田恵里先生

___先生のご専門はどのような分野ですか？

私の専門分野は、都市経済学と地域経済学です。一国を眺めたときには見えてこなかった課題を都市や地域という小さい単位を対象に分析することによって発見します。

___地域を見る、例えば東海地方を見るということですか？

はい。これまでに、岐阜県・愛知県・三重県・静岡県を分析対象とし、どのような地域に、どのような産業の産業クラスターが形成されているか検証しました。産業クラスターというのは、イノベーションが生じやすくなる環境のことで、企業や産業がどのように立地し合い、交流が増えることが望ましいのかが関心事となります。実際に自治体の事業に関わってきましたが、科学的知見に基づく政策立案を自治体から要請されることは少なくありません。

___岐阜・愛知・三重・静岡を分析することで見えてくる特徴とは何ですか？

行政で決められた境界内で産業クラスターは完結するのではなく、県境を越えて地域一帯に産業クラスターが広がっていることです。産業クラスターは、経済成長に貢献すると考えられてきましたが、どのような地域にあり、どのような産業が構成し、どのように機能しているかなど、産業クラスターの実態についてはよく分かっていなかったのです。

___県境を越えて産業クラスターが広がっているということは、地域政策を立案する際、県内だけを視野に入れた議論だけでは不十分だということですね。

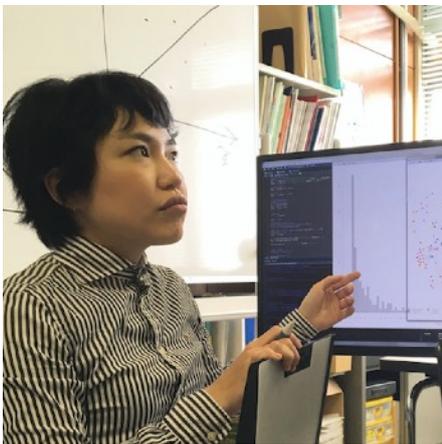
そうですね。客観的根拠から導かれた政策によって、地域経済が促進され民間部門で働く人々にも貢献したいと考えています。

___そのためのデータ分析って大変そうですね。

確かに手間はかかります。それこそ私の場合は、20年間分のデータを利用したため、市町村合併や産業分類の変更などがあり整理に手間がかかりました。しかし、「Garbage In, Garbage Out (ゴミからはゴミしか得られない)」です。意味のあるデータを使わないと研究がだめになってしまうので、データ整備には常に時間をかけます。産業クラスターの構造解明においても、関東地域や関西地域を含めた予備的な分析を行った上で、産業クラスターの特徴が読み取りやすい東海地域を詳細に分析しました。

___先生のご担当科目は「都市経済学Ⅰ・Ⅱ」ですね。授業ではどのようなことを教えてらっしゃいますか？

都市経済学Ⅰでは、主に都市の成立する過程について、都市経済学Ⅱでは、都市間の格差や課題とそれに介入する政府の役割について学びます。授業では、実際に生じている課題について受講生が主体的に理論的にも実証的にも議論できることを目標としています。実社会の現状を説明するときには、勘や経験を頼りにするのではなく、理論に沿ったデータを用いて表現することが強く求められます。



___勘や経験を頼りにするのでは限界があるのですか？

例えば東京都をはじめとした都市に地方から移動する人が多いらしい、ということを感じとして理解していたとしても、「地方とはどのような地域か？また、どれほどの人口が移動しているか？」ということを確認に説明できなければ説得力がありません。そのため、講義では政府が公表している統計データを利用して、データを読み取ることを通じて、実社会の現状を解釈していきます。

___では最後に、高校生の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

経済学では、社会全体のうれしさを増やすためにはどのようなルールが社会には必要か？ということを考えていきます。経済学の応用範囲は多岐にわたり、交通や企業、金融、貿易、歴史、マーケティング、会計などあらゆる分野へアプローチすることができます。多様な観点から社会の枠組みを捉えることができる分野である利点を活かし、関心のあることを通じて社会に貢献できることを一緒に考えていきましょう。